



設定マニュアル

RadiForce® RX270DD

カラー液晶モニター

重要

ご使用前には必ずこの設定マニュアルおよび取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。

- モニターの設置 / 接続については取扱説明書を参照してください。
- 設定マニュアルを含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。

www.eizo.co.jp

-
1. 本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
 2. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
 3. 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
 4. この製品の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
-


目次

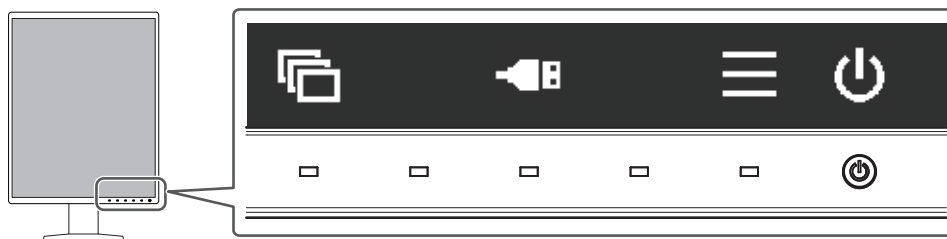
1 基本操作と機能一覧	5
1.1 スイッチと操作ガイドの使い方	5
1.2 設定メニューの基本操作	6
1.3 機能一覧	7
2 画面を調整する	9
2.1 対応解像度	9
2.2 入力信号を設定する	9
2.3 表示モード (CAL Switch Mode) を選択する	9
2.4 明るさ / カラーを調整する	10
2.4.1 各モードの調整項目	10
2.4.2 Hybrid Gamma PXLを有効 / 無効にする	11
2.4.3 ブライトネス (明るさ) を調整する	11
2.4.4 コントラストを調整する	11
2.4.5 色温度を調整する	12
2.4.6 ガンマを調整する	12
2.4.7 色合いを調整する	13
2.4.8 色の濃さを調整する	13
2.4.9 ゲインを調整する	13
2.5 画像鮮鋭度補正機能 (Sharpness Recovery) の有効 / 無効を設定する	14
3 モニターの品質管理をする	15
3.1 SelfCalibration機能を使う	15
3.1.1 SelfCalibrationを実行する	15
3.1.2 SelfCalibrationの結果を確認する	16
3.2 階調チェック機能を使う	16
3.2.1 階調チェックを実行する	16
3.2.2 階調チェックの結果を確認する	17
3.3 警告表示、QC履歴表示の表示 / 非表示を設定する	17
4 モニターを長く使用する	18
4.1 パワーセーブの設定をする	18
5 モニターの設定をする	19
5.1 表示言語を設定する	19
5.2 操作ガイドにUSB切り替えアイコンを表示する	19
5.3 USBデバイス进行操作するコンピュータを切り替える	19
5.4 入力信号を自動検出する	20
5.5 DisplayPort入力のバージョンを設定する	20
5.6 画像の表示方向を設定する	21
5.7 電源スイッチのランプの明るさを調整する	21
5.8 使用しない表示モードをスキップする	21
5.9 パワーセーブ時のDisplayPort通信の有効 / 無効を設定する	22








5.10	操作スイッチをロックする.....	22
5.11	階調表示警告の表示 / 非表示を設定する.....	23
5.12	寿命予測データを取得する.....	23
5.13	モニター情報を表示する.....	24
5.14	初期設定に戻す.....	24
5.14.1	カラー調整値をリセットする.....	24
5.14.2	すべての設定内容をリセットする.....	24
6	こんなときは.....	26
6.1	画面が表示されない場合.....	26
6.2	画面に関する症状.....	27
6.3	その他の症状.....	28
6.4	エラーコード表.....	29
7	ご参考に.....	30
7.1	オプションアーム取り付け方法.....	30
7.2	USBハブ機能の使用方法.....	32
7.3	主な初期設定値.....	34
7.3.1	CAL Switch Mode.....	34
7.3.2	その他.....	34
	付録.....	35
	商標.....	35
	ライセンス.....	35



1 基本操作と機能一覧

1.1 スイッチと操作ガイドの使い方

1. いずれかのスイッチに触れます（を除く）。
画面に操作ガイドが表示されます。




表示	機能
	電源のオン/オフを切り替えます。
	設定メニューを表示します。設定メニューでは、モニターの詳細な設定をおこないません。
	USBデバイスを操作するコンピュータを切り替えます。切り替え方法の詳細は、 5.3 USBデバイスを操作するコンピュータを切り替える [P. 19] を参照してください。 注意 ・ 初期設定では、操作ガイドに表示されません。表示方法は 5.2 操作ガイドにUSB切り替えアイコンを表示する [P. 19] を参照してください。
	表示モードを切り替えます。切り替え方法の詳細は、 2.3 表示モード (CAL Switch Mode) を選択する [P. 9] を参照してください。
	項目を選択します。
	選択した内容を確定します。
	選択をキャンセルします。

2. 設定したいアイコンのスイッチに触れます。
メニューが表示されます。
3. 各スイッチで設定します。必要に応じて  を選択して確定します。
4.  を選択してメニューを終了します。

参考




- 数秒間スイッチを操作しないと、メニューおよび操作ガイドが自動的に終了します。




1.2 設定メニューの基本操作

1. 操作ガイドから  を選択します。
設定メニューが表示されます。






参考

- 「管理者設定」の項目を調整 / 設定する場合は、次の手順に従って設定メニューを表示します。
 1.  を選択して、モニターの電源を切ります。
 2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
「管理者設定」が表示されます。

2.   で、調整 / 設定したいメニューを選択し、 を選択します。





詳細メニューが表示されます。

3.   で、調整 / 設定したい項目を選択し、 を選択します。



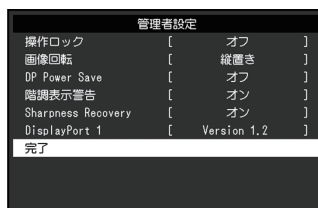
調整 / 設定メニューが表示されます。


4.   で、調整 / 設定し、 を選択して確定します。



参考

- 「管理者設定」の項目は、「完了」を選択することで設定が確定します。



5.  を数回選択し、設定メニューを終了します。

参考

- 「管理者設定」の項目は、「完了」を選択するとメニューを終了します。

1.3 機能一覧

設定メニューの項目一覧表です。

メインメニュー	項目	参照先
CAL Switch Mode	モード	2.4 明るさ / カラーを調整する [P. 10] 参考 ・ 「CAL Switch Mode」で調整 / 設定できる機能はモードにより異なります（各モードの調整項目 [P. 10]参照）。
	Hybrid Gamma PXL	
	ブライトネス	
	コントラスト	
	色温度	
	ガンマ	
	色合い	
	色の濃さ	
	ゲイン	
リセット		
RadiCS SelfQC	SelfCalibration	3.1 SelfCalibration機能を使う [P. 15]
	階調チェック	3.2 階調チェック機能を使う [P. 16]
	LEA	5.12 寿命予測データを取得する [P. 23]
	設定	3.3 警告表示、QC履歴表示の表示 / 非表示を設定する [P. 17]

メインメニュー	項目	参照先
本体設定	入力	2.2 入力信号を設定する [P. 9]
	入力自動検出	5.4 入力信号を自動検出する [P. 20]
	パワーセーブ	4.1 パワーセーブの設定をする [P. 18]
	ランプ輝度	5.7 電源スイッチのランプの明るさを調整する [P. 21]
	USB選択	5.2 操作ガイドにUSB切り替えアイコンを表示する [P. 19]
	モードスキップ	5.8 使用しない表示モードをスキップする [P. 21]
	オールリセット	5.14 初期設定に戻す [P. 24]
言語選択		5.1 表示言語を設定する [P. 19]
インフォメーション		5.13 モニター情報を表示する [P. 24]
管理者設定	操作ロック	5.10 操作スイッチをロックする [P. 22]
	画像回転	5.6 画像の表示方向を設定する [P. 21]
	DP Power Save	5.9 パワーセーブ時のDisplayPort通信の有効 / 無効を設定する [P. 22]
	階調表示警告	5.11 階調表示警告の表示 / 非表示を設定する [P. 23]
	Sharpness Recovery	2.5 画像鮮鋭度補正機能 (Sharpness Recovery) の有効 / 無効を設定する [P. 14]
	DisplayPort 1	5.5 DisplayPort入力のバージョンを設定する [P. 20]

2 画面を調整する

2.1 対応解像度

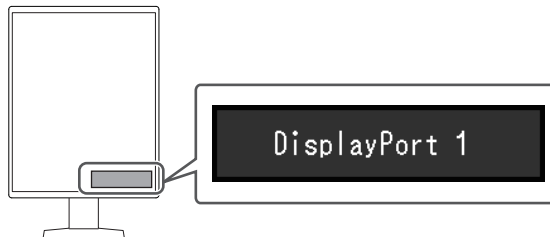
この製品の対応解像度については、取扱説明書「対応解像度」を参照してください。

2.2 入力信号を設定する

画面に表示する入力信号を選択することができます。

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「入力」を選択し、を選択します。
3. またはで「DisplayPort 1」/「DisplayPort 2」/「DVI」のいずれかを選択し、を選択します。

設定が完了すると、入力ポート名が表示されます。



注意点

- 主電源を切り、再度電源を入れた場合は、設定内容に関係なく信号が自動で検出されます。
- 「入力自動検出」が「オン」の場合は、設定した信号のコンピュータが省電力モードに入ったり、電源が切れたりすると、自動的に他の信号を表示します。詳細は、[5.4 入力信号を自動検出する \[P. 20\]](#)を参照してください。


2.3 表示モード（CAL Switch Mode）を選択する

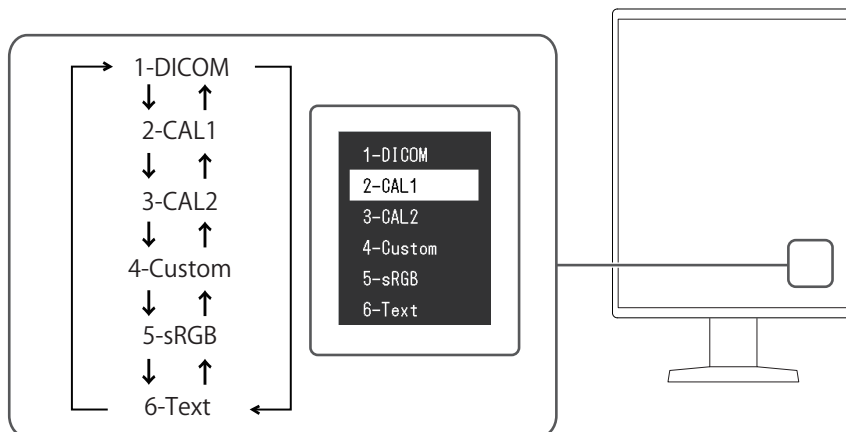
モニターの用途に応じた表示モードに切り替えることができます。




○：キャリブレーション可能

モード	目的	
1-DICOM	DICOM® Part 14 に準拠している階調特性で表示することができます。	○
2-CAL1	キャリブレーションソフトウェアによる調整状態で表示します。	○
3-CAL2		○
4-Custom	好みに応じた設定をおこなう際に選択します。	—
5-sRGB	sRGB対応の周辺機器と色を合わせる場合に適しています。	—
6-Text	文書作成や表計算などの文字表示に適しています。	—

1. いずれかのスイッチに触れます（を除く）。

2. 操作ガイドから  を選択します。
モードメニューが右下に表示されます。
例：



3.  を選択するたびにモードが順に切り替わり表示されます。
モードメニュー表示中は、 または  を選択してモードを切り替えることもできます。

参考

- ・ 設定メニューとモードメニューを同時に表示させることはできません。

2.4 明るさ / カラーを調整する

モードごとに明るさやカラーを調整し、保存することができます。

注意点

- ・ 品質管理のための各種試験やキャリブレーション、モニターの画面調整は電源を入れた後、またはパワーセーブモードから復帰して15分以上経過してからおこなってください。
- ・ モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色を合わせるときは、視覚的に判断しながら微調整してください。

参考

- ・ 「ブライトネス」、「色温度」表示は調整の目安としてご利用ください。

2.4.1 各モードの調整項目

モードの種類により、調整できる機能が異なります。（調整 / 設定できない機能は選択できません。）

○：調整可 —：調整不可

機能名	CAL Switch Mode					
	1-DICOM	2-CAL1	3-CAL2	4-Custom	5-sRGB	6-Text
Hybrid Gamma PXL	○	○	○	—	—	—
ブライトネス	—	—	—	○	○	○
コントラスト	—	—	—	○	○	○
色温度	—	—	—	○	○	○
ガンマ	—	—	—	○	○	○
色合い	—	—	—	○	○	○
色の濃さ	—	—	—	○	○	○
ゲイン	—	—	—	○	○	○
リセット	○	○	○	○	○	○

2.4.2 Hybrid Gamma PXLを有効 / 無効にする

Hybrid Gamma PXL機能を有効にすることで、同一画面内のモノクロとカラーをピクセルごとに自動的に判別し、カラー画像に対してカラー画像表示用のガンマ値で表示することができます。

設定値：「オン」 / 「オフ」

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「Hybrid Gamma PXL」を選択し、を選択します。
3. 「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。

2.4.3 ブライトネス（明るさ）を調整する

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定値：「0%」～「100%」

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「ブライトネス」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

参考

- ・ ブライトネスが0%でも画面が明るいと感じた場合は、コントラスト調整をおこなってください。

2.4.4 コントラストを調整する

ビデオ信号のレベルを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定値：「0%」～「100%」

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。

2. 「コントラスト」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

参考

- コントラストを100%にした場合に、すべての色階調が表示されます。
- 画面の明るさは、初めに、階調特性を損なうことのないブライトネスで調整することをお勧めします。
- コントラスト調整は次のような場合に使用してください。
 - ブライトネスが0%でも画面が明るいと感じたとき。

2.4.5 色温度を調整する

色温度を調整します。

通常「白」または「黒」の色合いを数値的に表現するときに用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。

炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。また、色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。

設定値：「Native」 / 「6000 K」～「15000 K」（100 K単位） / 「sRGB」

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「色温度」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

参考

- 「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です（[ゲインを調整する \[P. 13\]](#)参照）。
- 「Native」でパネル本来の色（ゲインの値はRGB各100%）になります。
- ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

2.4.6 ガンマを調整する

ガンマ値を調整します。モニターは入力信号のビデオレベルによって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。

設定値：「1.6」～「2.7」 / 「sRGB」

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「ガンマ」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

2.4.7 色合いを調整する

色合いを調整します。

設定値：「-100」～「100」

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「色合い」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

2.4.8 色の濃さを調整する

色の濃さを調整します。

設定値：「-100」～「100」

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「色の濃さ」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

参考

- 最小値 (-100) で白黒の画面となります。

2.4.9 ゲインを調整する

色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色調を変更することができます。

設定値：「0%」～「100%」

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「ゲイン」を選択し、を選択します。
3. 「Red」/「Green」/「Blue」の中から調整する色を選択し、を選択します。
4. またはで設定します。
5. 設定が完了したらを選択します。

注意点






- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

参考

- 色温度の値に応じてゲインの値が変わります。
- ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

2.5 画像鮮鋭度補正機能（Sharpness Recovery）の有効 / 無効を設定する

Sharpness Recoveryを有効にすることで、鮮鋭度を向上させ、元画像をより忠実に再現することができます。

1. を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ（）に触れながら に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「Sharpness Recovery」を選択し、を選択します。
4. または で「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。
5. 「完了」を選択し、を選択します。

注意点

- 設定の切り替え後は、医療規格 / ガイドラインに基づいて目視検査を実施してください。

3 モニターの品質管理をする

この製品は、Integrated Front Sensorを内蔵しており、キャリブレーションや階調チェックをモニター単独で実行することができます。

参考

- 付属のRadiCSのスケジュール機能を使用することで、キャリブレーションや階調チェックのスケジュール設定をおこなうことができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。
- Integrated Front Sensorの測定結果とEIZO製外付けセンサー（UX2 Sensor）の測定結果を同等にするためには、RadiCSを使用してIntegrated Front Sensorと外付けセンサーの相関取り（コレレーション）を実行してください。定期的なコレレーションにより、Integrated Front Sensorは外付けセンサーと同等の測定精度を維持することができます。詳細は、RadiCS取扱説明書を参照してください。なお、本製品のIntegrated Front Sensorは工場出荷時は縦型設置にて精度が最適化されています。横型設置でIntegrated Front Sensorによる品質管理をおこなう場合は必ず、横型設置状態でのコレレーションを実行してください。コレレーションに関する詳細は、RadiCS取扱説明書を参照してください。
- 内蔵の照度センサーと照度計の測定結果を同等にするためには、付属のRadiCSを使用して照度センサーの相関取り（コレレーション）をおこなってください。照度センサーのコレレーションに関する詳細は、RadiCS取扱説明書を参照してください。

3.1 SelfCalibration機能を使う

SelfCalibrationを実行し、最新の結果を閲覧できます。

3.1.1 SelfCalibrationを実行する

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「SelfCalibration」を選択し、を選択します。
3. 「実行」を選択し、を選択します。
SelfCalibrationが実行されます。

注意点

- SelfCalibration実行中にコンピュータの電源が切られる、または入力信号が切り替わった場合、実行がキャンセルされます。
- SelfCalibration実行後は、実際の使用環境と同じ室温や照度で階調チェックを実行してください。

参考

- RadiCSを使用することで、次の項目を設定することができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。
 - キャリブレーションの調整目標
 - SelfCalibrationのスケジュール
 - RadiCSでスケジュールを設定した場合は、詳細メニューに次回の実行スケジュールが表示されます。



- キャリブレーションの調整目標値は、設定メニューの「CAL Switch Mode」で対象のモードを選択することで確認できます。

3.1.2 SelfCalibrationの結果を確認する**注意点**

- 「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に確認できます（[3.3 警告表示、QC履歴表示の表示 / 非表示を設定する \[P. 17\]](#)参照）。

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「SelfCalibration」を選択し、を選択します。
3. 「結果閲覧」を選択し、を選択します。
4. または で「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」のいずれかを選択し、を選択します。
SelfCalibrationの結果（最大エラー率、前回実行日、エラーコードなど）が表示されます。

3.2 階調チェック機能を使う

階調チェックを実行し、最新の結果を閲覧できます。また、RadiCSでスケジュールを設定した場合には、次回の実行スケジュールを表示します。

3.2.1 階調チェックを実行する**注意点**

- 実際の使用環境と同じ温度や照度で階調チェックを実行してください。

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「階調チェック」を選択し、を選択します。
3. 「実行」を選択し、を選択します。
階調チェックが実行されます。

<p>注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 階調チェックの判定値は、RadiCSから設定することができます。詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。 ・ RadiCSを使用することで、階調チェックのスケジュールを設定することができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。RadiCSでスケジュールを設定した場合、詳細メニューに次回の実行スケジュールが表示されます。



3.2.2 階調チェックの結果を確認する

<p>注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に確認できます。
--

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「階調チェック」を選択し、を選択します。
3. 「結果閲覧」を選択し、を選択します。
4. または で「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」のいずれかを選択し、を選択します。
過去5回までの階調チェックの結果（合格 / 不合格 / 中止 / エラー）が表示されます。

3.3 警告表示、QC履歴表示の表示 / 非表示を設定する

階調チェックの結果がNGだった場合の警告表示や、SelfCalibrationや階調チェックなどの実行結果（QC履歴表示）の表示、非表示を設定することができます。

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「設定」を選択し、を選択します。
3. または で「警告表示」または「QC履歴表示」を選択します。
4. または で「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。

4 モニターを長く使用する

コンピュータの状態に応じて、モニターをパワーセーブモードにすることができます。モニター不使用時にパワーセーブモードとなるよう設定することで、モニターのバックライトの寿命を延長することができます。


4.1 パワーセーブの設定をする

コンピュータの状態と連動してモニターをパワーセーブモードにする、しないの設定をすることができます。

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「パワーセーブ」を選択し、を選択します。
3. または で「高」 / 「低」 / 「オフ」のいずれかを選択し、を選択します。

設定	機能
高	バックライトを消します。最も省電力効果が高くなります。
低	バックライト最小点灯状態にします。パワーセーブから復帰した後、動作が安定するまでの時間を短くすることができます。
オフ	パワーセーブモードに移行しません。コンピュータの状態に関わらずバックライトが点灯しているため、バックライトの寿命を短くする可能性があります。

注意点

- モニターを使用しないときは、主電源を切るか、電源プラグを抜くことで電力が消費されなくなります。
- モニターがパワーセーブモードの場合、またはモニターの電源スイッチ () で電源を切っても、USBアップストリームポートおよびUSBダウンストリームポートに接続されている機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、パワーセーブモードであっても接続される機器によって変化します。

参考

- コンピュータから信号が入力されなくなったことを検出すると、パワーセーブモードへの移行をお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されてから5秒後にパワーセーブモードに入ります。
- パワーセーブを「高」または「低」に設定しているときはモニターの状態を電源スイッチのランプの色で確認できます。
 - 電源ランプが緑色：モニターは通常動作モード
 - 電源ランプが橙色：モニターはパワーセーブモード

5 モニターの設定をする

5.1 表示言語を設定する


設定メニューやメッセージの表示言語を選択できます。



- 選択できる言語

「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「イタリア語」、「スウェーデン語」、「日本語」、「中国語（簡体）」、「中国語（繁体）」

1. 設定メニューの「言語選択」を選択し、を選択します。
2. 言語を選択し、を選択します。

5.2 操作ガイドにUSB切り替えアイコンを表示する

操作ガイドにUSB切り替えアイコン () を表示する、しないを設定することができます。

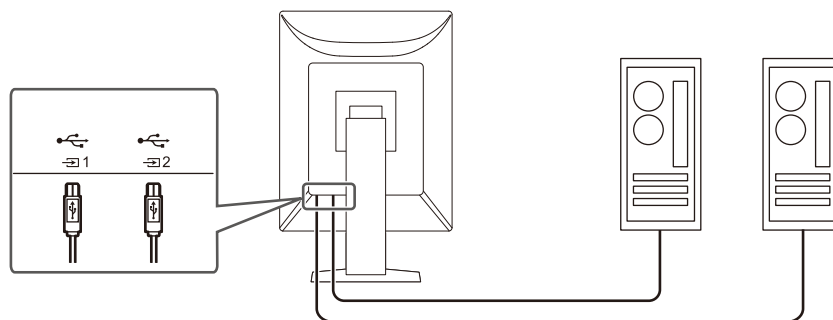
1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「USB選択」を選択し、を選択します。
3.  または  で「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。
「オン」を選択すると、操作ガイドにUSB切り替えアイコンが表示されます。

注意点


- 「オフ」に設定すると、「USB 2」を選択中であっても「USB 1」に接続中のコンピュータが有効になります。

5.3 USBデバイス进行操作するコンピュータを切り替える

USBデバイス进行操作するコンピュータを切り替えます。





注意点

- 設定を変更する際は、モニターにUSBメモリなどの記憶装置を接続している場合、記憶装置を取り外してから設定を変更してください。データの消失、破損の恐れがあります。
- モニターの品質管理をおこなうコンピュータは  に接続してください。




参考

- RadiCSを使用することで、入力信号の切り替えやマウスカーソルの位置に連動してUSBデバイス进行操作するコンピュータを切り替えることができます（Switch-and-Go）。詳細はRadiCSの取扱説明書を参照してください。

1. いずれかのスイッチに触れます（を除く）。
2. 操作ガイドからを選択します。






参考

- が表示されない場合は、[5.2 操作ガイドにUSB切り替えアイコンを表示する \[P. 19\]](#)を参照してください。

3. またはで「USB 1」または「USB 2」を選択し、を選択します。
操作するコンピュータが接続されたUSBアップストリームポートを選択してください。

5.4 入力信号を自動検出する

信号が入力されているコネクタを自動で判別し、画面に表示することができます。


1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「本体設定」で「入力自動検出」を選択し、を選択します。
3. またはで「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。

設定	機能
オン	信号が入力されているコネクタを自動で判別し、画面に表示します。 複数のコンピュータを接続している場合に、画面に表示しているコンピュータが省電力モードに入ったり電源が切れたりすると、自動的に他の信号を表示します。
オフ	入力信号の選択を手動でおこなう場合、この設定にします。入力信号を切り替える場合は、 2.2 入力信号を設定する [P. 9] を参照してください。

参考






- 主電源を切り、再度電源を入れた場合は、設定内容に関係なく信号が自動で検出されます。

5.5 DisplayPort入力のバージョンを設定する

DisplayPort 1 () のバージョンを設定することができます。






注意点

- デイジーチェーン接続する場合は、バージョンを「Version 1.2」に設定してください。
- DisplayPort™コネクタに接続している場合、コンピュータによってはDisplayPortのバージョンが異なり、画面が表示されないことがあります。その場合は、この設定を変更してみてください。

1.  を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「DisplayPort 1」を選択し、 を選択します。
4.  または  で「Version 1.1」または「Version 1.2」を選択し、 を選択します。
5. 「完了」を選択し、 を選択します。

5.6 画像の表示方向を設定する

モニターの設置方向に合わせて、画像の表示方向を変更することができます。

1.  を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「画像回転」を選択し、 を選択します。
4.  または  で「縦置き」または「横置き」を選択し、 を選択します。



設定	モニター設置方向
縦置き	縦型設置の場合に選択します。
横置き	横型設置の場合に選択します。

5. 「完了」を選択し、 を選択します。

5.7 電源スイッチのランプの明るさを調整する

画面表示時の電源スイッチのランプ（緑）の明るさを設定することができます。値が大きいほど電源ランプは明るく点灯し、小さいほど暗くなります。「オフ」では電源スイッチのランプは消灯した状態です。

設定値：「1」～「7」/「オフ」

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、 を選択します。
2. 「ランプ輝度」を選択し、 を選択します。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら を選択します。

5.8 使用しない表示モードをスキップする

表示モードを選択するときに、特定のモードをスキップすることができます。

表示するモードを限定したい場合や、表示状態をむやみに変更したくない場合にご利用ください。

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、 を選択します。
2. 「モードスキップ」を選択し、 を選択します。

3. 設定を変更するモードを選択し、を選択します。
4. またはで「スキップ」または「-」を選択し、を選択します。

注意点

- すべてのモードを無効（スキップ）にすることはできません。1つ以上のモードを「-」に設定してください。

5.9 パワーセーブ時のDisplayPort通信の有効 / 無効を設定する

コンピュータをDisplayPortコネクタに接続している場合、パワーセーブモードであってもDisplayPortの通信が有効なため、消費電力が高くなります。「DP Power Save」を「オン」にすると、パワーセーブモード時の通信を無効にし、パワーセーブ時の消費電力をセーブすることができます。

注意点

- 「オン」を選択した場合、電源のオフ/オン時、およびパワーセーブモードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれることがあります。その場合は、この機能を「オフ」に設定してください。

1. を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「DP Power Save」を選択し、を選択します。
4. またはで「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。
5. 「完了」を選択し、を選択します。

5.10 操作スイッチをロックする

調整、設定した状態を変更できないようにします。

1. を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「操作ロック」を選択し、を選択します。
4. またはで「オフ」 / 「メニュー」 / 「オール」のいずれかを選択し、を選択します。

設定	ロックできるスイッチ
オフ	なし（すべてのスイッチが有効）
メニュー	設定メニューによる調整、設定
オール	<input checked="" type="checkbox"/> を除くすべてのスイッチ

5. 「完了」を選択し、を選択します。

参考






- RadiCSでキャリブレーションを実行した後は、「操作ロック」の「メニュー」が選択された状態になります。

5.11 階調表示警告の表示 / 非表示を設定する

推奨解像度でDisplayPort信号を入力したときに、6bit（64階調）の信号が検知されたことを知らせる、階調表示エラーメッセージを表示する、しないを設定することができます。エラーメッセージが表示された場合は、モニターの主電源を入れ直してください。

注意点

- 通常は「オン」でご使用ください（出荷設定は「オン」です）。
- 6bit（64階調）で使用する場合のみ、「オフ」にしてください。



1. を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ（）に触れながら に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「階調表示警告」を選択し、を選択します。
4. または で「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。
5. 「完了」を選択し、を選択します。

5.12 寿命予測データを取得する

モニターの寿命を予測するのに必要なデータを取得することができます。取得したデータに基づく寿命予測は、RadiCSで確認することができます。

参考

- データは100時間ごとに収集されます。
- 「パワーセーブ」を選択した場合、100時間経過後、パワーセーブに移行するとき、または電源が切れるときにデータが収集されます。
- 「定期測定」または「パワーセーブ」を選択した場合、データ収集時にIntegrated Front Sensorが稼働して測定をおこないます。「オフ」を選択した場合は、データ収集時にIntegrated Front Sensorを使った測定はおこないません。
- 次のタイミングでデータが保存されます。
 - 500、1000、2000、4000、7000、10000、15000、20000、25000、30000 時間

1. 設定メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「LEA」を選択し、を選択します。
3. 「測定時期」を選択します。
4. または で「パワーセーブ」 / 「定期測定」 / 「オフ」のいずれかを選択し、を選択します。

5.13 モニター情報を表示する

現在表示している入力信号とこの製品に関する情報を表示します。

1. 設定メニューの「インフォメーション」を選択し、を選択します。

入力信号情報、製品名、製造番号、ファームウェアバージョン、使用時間などが表示されます。

資産管理番号は、RadiCSで設定した場合にのみ表示されます。

例：

インフォメーション	
RadiForce	S/N: 00000001
バージョン	00000-00000-00000
使用時間 (h)	製品: 1234567 バックライト: 1234567
資産管理番号	*****
入力信号	DisplayPort 1 1600 X 1200 fH: 75.05 kHz fV: 60.09 Hz fD: 162.1 MHz

注意点

- ・工場での検査などのため、購入時に使用時間が「0」ではない場合があります。

5.14 初期設定に戻す

リセットには、カラー調整のみを初期設定に戻す機能と、すべての設定内容を初期設定に戻す機能があります。

注意点

- ・リセット実行後は、リセット前の状態に戻すことはできません。

参考

- ・初期値については、[7.3 主な初期設定値 \[P. 34\]](#)を参照してください。

5.14.1 カラー調整値をリセットする

現在選択しているモードのカラー調整値のみを初期設定に戻します。

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「リセット」を選択し、を選択します。
3. 「OK」を選択し、を選択します。

カラー調整値が初期設定になります。

5.14.2 すべての設定内容をリセットする

すべての設定内容を初期設定に戻します（「入力」、「管理者設定」メニューは除く）。

1. 設定メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「本体設定」で「オールリセット」を選択し、を選択します。
3. またはで「OK」を選択し、を選択します。
「入力」および「管理者設定」メニューを除くすべての設定内容が初期設定になります。

6 こんなときは

6.1 画面が表示されない場合

電源スイッチのランプが点灯しない

- 電源コードは正しく接続されていますか。
- 主電源を入れてください。
- ①に触れてください。
- 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点灯：緑色

- 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください。（[2.4 明るさ / カラーを調整する \[P. 10\]](#)参照）。
- 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点灯：橙色

- 入力信号を切り替えてみてください（[2.2 入力信号を設定する \[P. 9\]](#)参照）。
- マウス、キーボードを操作してみてください。
- コンピュータの電源は入っていますか。
- 信号ケーブルが正しく接続されていますか。入力信号に「DisplayPort 1」を選択している場合は②に、「DisplayPort 2」を選択している場合は③に接続してください。④は、デジチェーン接続時の出力に使用します。
- 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点滅：橙色、緑色

- 当社指定の信号ケーブルで接続してください。その後、主電源を切り、再度電源を入れてみてください。
- DisplayPort 1 (②) に接続している場合は、DisplayPortのバージョンを切り替えてみてください（[5.5 DisplayPort入力のバージョンを設定する \[P. 20\]](#)参照）。

画面に「入力信号無し」のメッセージが表示される

例：



- コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出力されないため、上のような画面が表示されることがあります。
- コンピュータの電源は入っていますか。

- 信号ケーブルが正しく接続されていますか。入力信号に「DisplayPort 1」を選択している場合は DP_1 に、「DisplayPort 2」を選択している場合は DP_2 に接続してください。 DP は、デジチェーン接続時の出力に使用します。
- 入力信号を切り替えてみてください（2.2 入力信号を設定する [P. 9]参照）。
- DisplayPort 1（ DP_1 ）に接続している場合は、DisplayPortのバージョンを切り替えてみてください（5.5 DisplayPort入力のバージョンを設定する [P. 20]参照）。
- 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。

画面に「信号エラー」のメッセージが表示される

例：



- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「対応解像度」参照）。
- コンピュータを再起動してみてください。
- グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

6.2 画面に関する症状

画面が明るすぎる / 暗すぎる

- 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」を調整してください。（液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、EIZOメンテナンスセンターにご相談ください。）

文字がぼやけて見える

- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「対応解像度」参照）。
- OSの拡大表示の設定を「100%」にしてみてください。複数のモニターを使用している場合は、すべてのモニターの拡大表示の設定を「100%」にしてみてください。

残像が現れる

- この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。
- 長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。
- 表示する画像によっては、短い時間でも残像が残ることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。

画面に緑、赤、青、白のドットが残る / 点灯しないドットが残る

- これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。

画面上に干渉縞が見られる / 液晶パネルを押した跡が消えない

- 画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。

6.3 その他の症状

設定メニューが表示できない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください (5.10 [操作スイッチをロックする \[P. 22\]](#)参照)。

モードメニューが表示できない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください (5.10 [操作スイッチをロックする \[P. 22\]](#)参照)。

操作スイッチが効かない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください (5.10 [操作スイッチをロックする \[P. 22\]](#)参照)。
- スイッチ表面に水滴や異物が付着していませんか。表面を軽くふき、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。
- 手袋を装着していませんか。手袋を外した、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。

USBケーブルで接続したモニターが認識されない / モニターに接続しているUSBデバイス (周辺機器) が動作しない

- USBケーブルは正しく接続されていますか (7.2 [USBハブ機能の使用法 \[P. 32\]](#)参照)。
- USB Type-C®コネクタは充電専用です。周辺機器は動作しません。
- コンピュータの別のUSBポートに差し替えてみてください。
- モニターの別のUSBポートに差し替えてみてください。
- コンピュータを再起動してみてください。
- 周辺機器を操作するコンピュータを切り替えてみてください (5.3 [USBデバイスを操作するコンピュータを切り替える \[P. 19\]](#)参照)。
- 直接コンピュータと周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、お買い求めの販売店またはEIZOサポートにご相談ください。
- ご使用のコンピュータおよびOSがUSBに対応しているかご確認ください (各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください)。

- Windowsをご使用の場合、コンピュータに搭載されているBIOS (UEFI) のUSBに関する設定をご確認ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。

Integrated Front Sensorが出たままになっている

- 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。

RadiCSの起動に時間がかかる

- 付属のUSBケーブルを接続してください。

RadiCSがモニターとの接続に失敗する

- USBケーブルが抜けていないか確認してください。
- RadiCSで品質管理をおこなう場合は、に接続してください。
「USB選択」が「オン」の場合は「USB 1」を選択してください。

SelfCalibration / 階調チェックに失敗する

- [6.4 エラーコード表 \[P. 29\]](#)を参照してください。
- エラーコード表にないコードが表示された場合は、販売店またはEIZOサポートにご相談ください。

注意点
<ul style="list-style-type: none"> • Integrated Front Sensorに触らないでください。

SelfCalibration / 階調チェックの履歴に時刻が正しく表示されない

- RadiCSを使用して「モニター検出」を実行してください。詳細は、RadiCS取扱説明書を参照してください。

6.4 エラーコード表

エラーコード	詳細
****50	<ul style="list-style-type: none"> • 製品の最大輝度が目標輝度よりも低くなっている可能性があります。 • 目標輝度を下げてください。
****52	<ul style="list-style-type: none"> • 製品の最小輝度が目標最小輝度よりも高くなっている可能性があります。 • 目標最小輝度を上げてみてください。
****05	<ul style="list-style-type: none"> • センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 • 主電源を切り、数分後に再度電源を入れてからSelfCalibration / 階調チェックをやり直してみてください。
****20 ****21	<ul style="list-style-type: none"> • センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 • センサーの周囲に異物がないか確認してみてください。 • SelfCalibration / 階調チェックをやり直してみてください。

7 ご参考に

7.1 オプションアーム取り付け方法

この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることができます。対応しているオプションアーム（またはオプションスタンド）については、当社のWebサイトを参照してください。

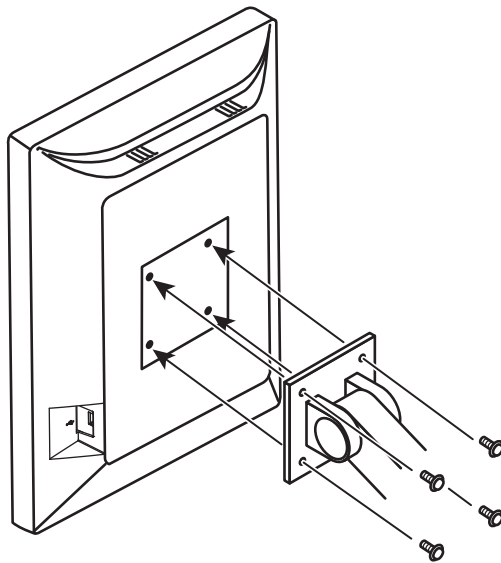
(www.eizo.co.jp)

注意点

- 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。
 - 取付部のねじ穴間隔：100 mm×100 mm
 - アームまたはスタンドのVESAマウント部外觀寸法：122 mm×122 mm以下
 - 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合、取り付けには次のねじをご使用ください。
 - 本体部分とスタンドを固定しているねじ
- アームまたはスタンドを使用する場合は、次の範囲（チルト角）で使用してください。
 - 上45°下45°（縦型設置時、および反時計回り90°に横型設置時）
- ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- 取り外したスタンドを昇降させないでください。モニター本体を取り付けていない状態でスタンドを昇降させると、けがや故障の原因となります。
- モニターおよびアームまたはスタンドは重いため、落としたりするとけがや故障の原因になります。
- 定期的にねじの締め付けを確認してください。締め付けが不十分な場合、モニターが外れ、けがや故障の原因となります。

1. 液晶パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷き、液晶パネル面を下に向けて置きます。
2. 別途ドライバを準備してください。ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじ4箇所を取り外します。

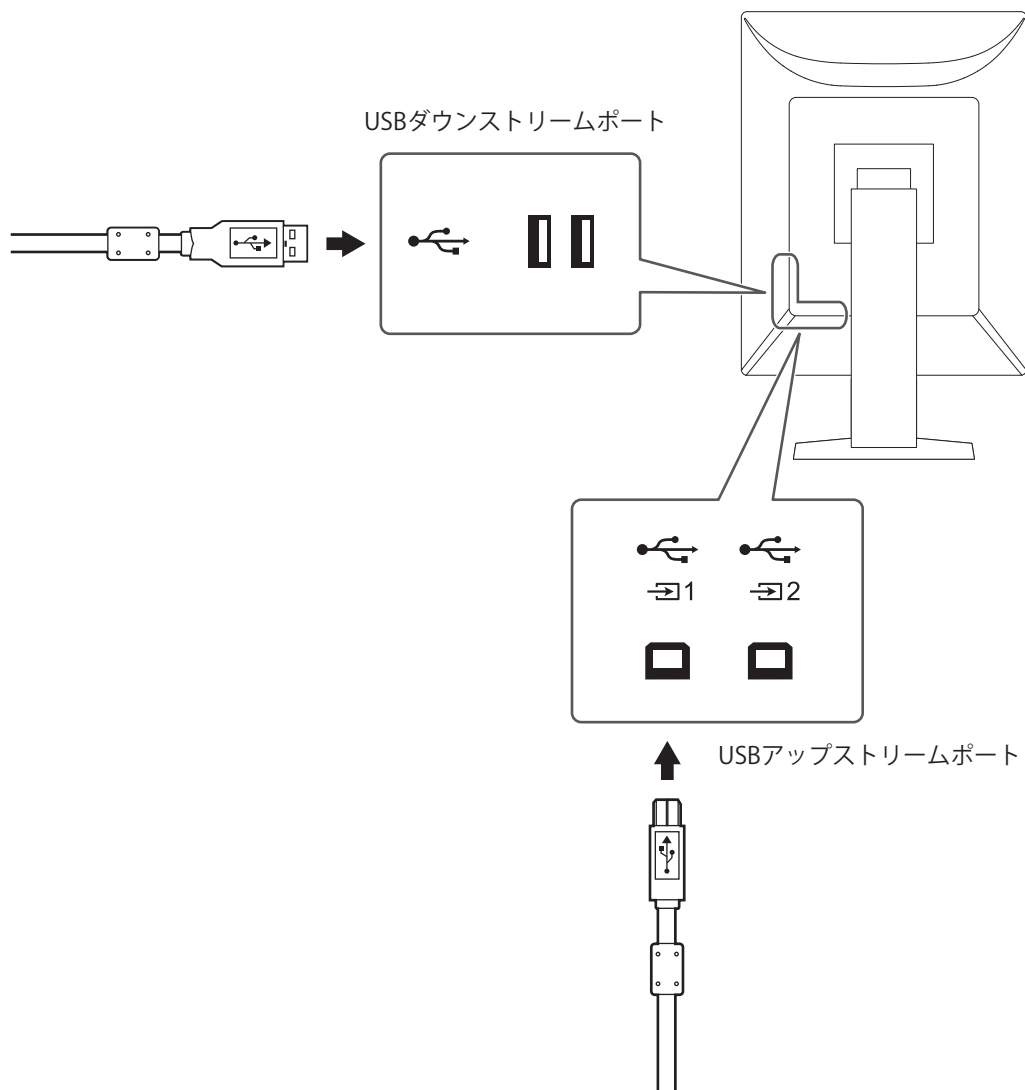
3. 手順2で取り外したねじを使用して、アーム（またはスタンド）を取り付けます。




7.2 USBハブ機能の使用方法

この製品はUSBハブを搭載しています。USB対応のコンピュータまたはUSBハブを搭載した他のモニターに接続することにより、この製品がUSBハブとして機能し、USBに対応している周辺機器と接続できます。




1. コンピュータ（あるいはUSBハブ搭載モニター）のUSBダウンストリームポートとこの製品のUSBアップストリームポートをUSBケーブルで接続します。
2. USB対応の周辺機器をモニターのUSBダウンストリームポートに接続します。



注意点

- 主電源スイッチがオフの場合、USBダウンストリームポートに接続されている機器は動作しません。
- モニターの品質管理をおこなうためにRadiCSをインストールしたコンピュータは、1に接続してください。

参考

- 出荷状態では、にキャップが付いています。を使用する場合は、キャップを外してください。
- 初期設定では、が有効です。2台のコンピュータを接続し、USBデバイス进行操作するコンピュータを切り替えて使用する場合は、[5.3 USBデバイス进行操作するコンピュータを切り替える \[P. 19\]](#)を参照してください。


7.3 主な初期設定値

7.3.1 CAL Switch Mode

工場出荷時の表示設定は「1-DICOM」です。

モード	輝度	色温度	ガンマ	Hybrid Gamma PXL
1-DICOM	500 cd/m ²	7500 K	DICOM GSDF	オフ
2-CAL1	400 cd/m ²	7500 K	2.2	オフ
3-CAL2	400 cd/m ²	7500 K	DICOM GSDF	オフ
4-Custom	約 300 cd/m ²	7500 K	2.2	- (無効)
5-sRGB	約 250 cd/m ²	sRGB	sRGB	- (無効)
6-Text	約 100 cd/m ²	6500 K	2.2	- (無効)

7.3.2 その他

LEA	パワーセーブ
警告表示	オフ
QC履歴表示	オン
入力	DisplayPort 1 ^{※1}
入力自動検出	オフ
パワーセーブ	高
ランプ輝度	4
USB選択	オフ
モードスキップ	- (すべて表示)
言語選択	日本語
操作ロック	オフ ^{※1}
画像回転	縦置き ^{※1}
DP Power Save	オフ ^{※1}
階調表示警告	オン ^{※1}
Sharpness Recovery	オン ^{※1}
DisplayPort 1	Version 1.2 ^{※1}
USB選択 ()	USB 1

※1 「オールリセット」 (すべての設定内容をリセットする [P. 24]参照) を実行しても初期設定値には戻りません。

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Incの商標または登録商標です。

DisplayPort、DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAは、Video Electronics Standards Associationの米国およびその他の国における商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。



SuperSpeed USB Power Delivery Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の商標です。



USB Type-C、USB-CはUSB Implementers Forum, Incの登録商標です。

DICOMは、National Electrical Manufacturers Associationが所有する、医用情報のデジタル通信に関する規格の登録商標です。

Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AdobeはAdobe（アドビ）の米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、macOS、Mac OS、OS X、macOS Sierra、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の商標です。

ENERGY STARは米国環境保護庁の米国およびその他の国における登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i-Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、SafeGuard、Screen Administrator、Screen InStyle、ScreenCleaner、UniColor ProfはEIZO株式会社の商標です。
その他の会社名、商品名およびロゴマークは所有者の商標または登録商標です。

ライセンス

この製品上で表示される文字には、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が制作したビットマップフォントを使用しています。

この製品に使用されているオープンソースソフトウェアのライセンス情報はwww.eizoglobal.com/support/oss/に掲載されています。

